

キャン ドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人 アフリカ地域開発市民の会(CanDo) 会報 2011年9月 [第56号]



**CanDoの活動の方向性** ケニア人専門家、調整員、助手・通訳への期待 永岡 宏昌  
ナイロビ便り ナイロビの道路の大規模開発 満井 綾子

**19人のケニア人スタッフを紹介します**  
**インターンを終えて**

梅本 大介／小松 映里佳

7月、ブックレット&電子ブック発行記念報告会を開催  
8月、アカウンタビリティ・セルフ・チェック 2008 を実施  
事務局から

写真は、バオバブの木の下で、教室建設のレンガ作成研修(グローバルフェスタ 2011 展示パネルから)

## ケニア人専門家と調整員、助手・通訳への期待

代表理事 永岡 宏昌

当会のケニア人スタッフは専門家と調整員、および助手、通訳に区分されます。

専門家は研修や学習会を通し、教育・建設・保健・エイズ・環境などの専門分野の知識や技能を、地域の実情に合わせてわかりやすく住民、教員に伝えます。そして、住民、教員が課題解決について考え、話し合い、家庭や学校・地域で実践していくことを応援します。その専門家のムインギでの現地化を進めています。順調なのが保健・エイズの分野で、旧ムインギ県保健局を定年退職した医療従事者 4 名が当会の保健専門家となっています。ケニアの公務員の退職年齢が 55 歳と早いと、これまでの専門知識を生かして、まだまだ地域社会に貢献できる人たちです。

彼らの医療知識や臨床経験は豊富なのですが、地域の社会問題と関連付けて理解を深め、住民へ適切な助言をすることに関しては、十分な経験がなく能力向上の途中です。例えば、エイズの原因となる HIV 感染予防について丁寧に説明することはできても、感染を予防しつつ HIV 陽性者との地域の中での共生について、住民とうまく話し合うことができません。また、早期妊娠のさまざまな危険について、体験にもとづいて説明することはできても、女児の受動的性交渉につながる

社会の大人たちの課題に触れるのは及び腰になりがちです。

一方、地域の青年をカンバ語と英語の通訳として雇用しています。採用条件は一定以上の成績で高校を卒業していることと、通訳としての資質、そして地域の人々のために働きたいという意欲を重視します。通訳から事業を補佐する助手、調整員へと事業への責任が重くなっていきます。教員の経験もある若い調整員が、経験豊かな保健専門家に、小学校での保健の授業の取り組み方について助言することもあります。また、通訳・助手・事業調整員が集まって、研修や学習会の中での専門家の発言や態度で気になっている点を持ち寄り、分析して、専門家へ改善を求めるともあります。助手の中には、当会スタッフが教科書供与のために訪問した小学校の生徒で、将来、こんな仕事をしたいと思った人もいます。当会を退職して、大学や専門学校に進学しながら、休みのたびに非常勤スタッフとして現場に出る人もいます。このような人材が、専門的知識と地域を見る視点を養い、地域の人々が力をつけ、自律することを応援する意識を持ち続ける。それが地域にとっても、当会にとっても重要なのだと思います。

## ナイロビ便り

### ナイロビの道路の大規模開発

調整員 満井 綾子

この 8 月、ケニアを離れてから 3 年半ぶりに、短期調整員として戻ってきたナイロビは、見違えた姿でそびえ立っていました。高級住宅街に立ち並ぶ、華やかな店やオフィスが入るビル、高級マンション以上に、私を惑わしたものは、道路の開発です。

近年、ナイロビ周辺の交通渋滞の緩和策として、道路の大規模開発計画が急速に進んでいました。ナイロビ中心街の周辺では、従来のイギリス式のラウンドアバウト(環状に車が流れる交差点)ではなく、これまでになかった立体交差点ができています。そして高架線や片側 4 車線の広い道路があちこちに建設されています(車線があつてないようなナイロビでは、渋滞時には 6 車線くらいになりそうです)。中国の支援により建設が進められているティカ道路を含むナイロビ東部バイパスは、ケニア政府ウェブサイトによると、路幅 60 メートルの道路になる予定とか。

保健事業担当の調整員として 4 年半の間、毎週のように通っていた、ナイロビからムインギに向かうティカ道路は、今では自分がどこにいるのか見当がつかないくらい変貌しています。あつたはずの山が、道路建設のために削られてなくなってしまうなど、周辺の環境も変化していました。

建設が急速に進んでいるので、ムインギに向かって同じ道を選びたいのに、毎週のように通れる道が変わり、時にはどこを走っているかわからない状態だったりします。レンタカー会社の運転手も道を把握できていないようで、とても遠回りになったり、ひどい渋滞に突っ込んだりすることは避けられません。建設中の 4 車線道路では、一部が未完成で車幅が大幅に狭くなっているところがあり、当然、そこでは大渋滞になります。ひどい場合は、完成して開通している反対車線に次々と「車線変更」して逆走。広い道路でスピードを出して走っている対向車は「逆走車か！」と恐ろしいことになっています。

一方で、大規模開発を称賛する声も多いのは事実です。しかし、道路建設により市街地の周辺にあった市場が、新しい都市開発にはそぐわないと見られて取り壊されるなど、市民の生活に大きな影響を与えていることは否めません。これがケニアの発展像を象徴しているのでしょうか。ムインギの村々では、久々に訪れてもついこの前までいたように感じ、そこでのほんの小さな変化には感動を覚えるのに比べて、ナイロビの変容ぶりは、知らないところで、全く別のことが起きているような違和感があります。

## 調整員 2 人 + 調整員助手 6 人 + 専門家 11 人 = 19 人のケニア人スタッフを紹介します

### ◆ 調整員

活動計画を策定、関係者と調整し進めます。

#### カンダリ・ムロンジア

教室建設担当

他の NGO で働いた経験があり、地域開発に対する考え方やアプローチの方法に共感して、2001 年 6 月から CanDo に勤務。CanDo の活動では、地域との相互作用が印象的だという。明るく社交的で人を巻き込む力がある。ムインギ中央県出身。40 代。



#### ビクトリア・ムニヤ

保健担当

元小学校教員。広い視野から、保健の問題を地域に呼びかけることで住民の意識を変えていく機会になると思い、2007 年から勤務。早期妊娠予防の研修において、子どもたちとの話し合いの場をもつことの重要性和、親の目を気にせず、のびのびと質問をし、疑問をぶつけてくれることにやりがいを感じている。みんなをまとめる力がある、リーダー的存在。ときどき見せるお茶目さがかわい。ムインギ東県出身。20 代。



### ◆ 調整員助手

日本人スタッフに住民のカンバ語を通訳。

#### パトリック・マサイ

教室建設担当

小学校教員、ナイロビでの建設会社勤務を経て、ナクルの大学に通うかわら 2009 年 9 月からアルバイトとして CanDo で働く。技術や能力の向上が地域開発につながるという CanDo の目的に共感し、自分のキャリアと合致したからという。計画、人材配置など、CanDo の事業運営・管理の質が高いところがいいと考えている。明るく、身体を動かすことが大好きな好青年。ムインギ東県出身。20 代。



#### ピーター・カランバ

保健担当

地域住民の発展と自分自身の成長のため、そして経済的な理由から 2006 年 2 月から勤務。看護師となるための専門学校を近く卒業する予定。CanDo が行なってきた事業によって、地域住民の能力向上が見えたとき、意義のある活動だと思う。保健の知識が豊富。スタッフ、インターンにとっては、



一緒にいて楽しい人。ムインギ東県グニ郡出身。26 歳。

#### クレネス・ムティンダ

保健、教室建設担当

元 M-PESA (金融機関) のマネージャー。カンバの地域開発に協力している CanDo の一員として働くのは幸せと、2010 年 2 月から勤務。民族は違っても敬意をもって一緒に働く、日本人のインターンからたくさん学ぶことがあったという。現場の仕事も事務作業も楽しんでいて、計算が得意。繊細で真面目。ムインギ東県出身。23 歳。



#### エスタ・ンドウ

保健担当

以前は、穀物の在庫管理者。エイズやさまざまな病気の知識を深めたいという理由と実地調査が好きだったことから、2010 年 2 月から CanDo 勤務。エイズ公開授業で、教員が一生懸命エイズの知識を子どもたちに教え、誤った認識やうわさが正しい理解にかわっていくところを見て心を打たれたという。おしゃれな 20 代。ムインギ東県グニ郡出身。



#### レンソン・ムタンギャ

調整員助手 (通訳)

教室建設、保健、環境担当  
以前、コンピューターを教えるアルバイトなどをしてきた (現在、コンピューター科の学位を



とるために、専門学校に通う)。地域に貢献したいという気持ちと日本の NGO で働きたいと思いがあり、CanDo での仕事は良い機会だと考えて、2011 年 5 月から勤務。保健や運営・管理の技術など多くの得るものがあったと思っている。遅刻しないように、携帯電話の時間表示を進めている。地域を良くしたいという思いが伝わってくる熱い人。ムインギ東県出身。

#### グレース・ティタス

保健担当

以前は、店を経営。2011 年 5 月から、生活費を得るため、また興味深い人たちと一緒に仕事でより多くのことを学ぶために CanDo で勤務。学校保健や地域保健の活動にやりがいを感じている。数か月前に実施した学習会の場所や会場名をよく覚えていて、日本人スタッフには頼りになる存在。ムインギ東県出身。



### ◆ 専門家

研修計画やマニュアルを作成、技術指導。

### ● 保健

#### ミルカ・カワシア・ソビ

私立病院勤務。経済的な理由と、保健に関する基本的な情報への住民のアクセスや、生活改善を助けたいという思いで、2004 年 4 月から関わる。地域に影響を与えている問題について



議論し、その解決策を見つけ出せたときにやりがいを感じる。知識や経験が豊富で、住民のことをとてもよく見ている、一緒に働くスタッフは勉強になる。また、気が強そうだが、落ち込んでいるスタッフに印象深い言葉をかけてくれたりする。36歳。

### ベンジャミン・カムティ

ケニアの政府機関を退職後、保健に関する住民の知識提供のため、2007年からCanDoに関わる。いつもここにこして、話していると周囲は優しい気持ちになる。ムインギ東県出身。



### エリザベス・グリ

看護師。エイズの自発的テストとカウンセリング(VCT)のカウンセラーの経験があり、エイズ研修でCanDoの求めるものと一致したので、2010年3月から関わる。明るい服装を好む。ミグワニ県出身。



### ジェイムス・キズク

看護師。以前は、県の保健局に勤務。最新の情報を得ることで、自分の保健の知識・技術の向上につなげ、また、地域の人々に自分が持つ情報や知識を提供できるよい機会になると考えて、2007年2月からCanDoに関わる。エイズ研



修や公開授業などで、参加者がこれまでの知識の間違いに気づき、正しい知識を身につけて喜ぶ姿をみるのがうれしいという。話し上手でユーモアのセンスが抜群。参加者をひきつける。疲れを顔に見せないで、いつも「ノー・プロブレム!」。東部州エンブ県マキマ出身。

### ジョゼフ・マルキ

以前は保健省に勤務。看護師や医者、保健省の役人などに研修を行っていた。自分の専門分野であるエイズや母性保護の事業を行なうCanDoには、2011年2月から関わる。CanDoの地域住民に関わる姿勢はよいと、また、適切な情報を地域住民に伝えられることをうれしく思っている。専門家の中でも知識量は突出していて、どんな質問にも答えることができる。ムインギ東県ヌー郡出身。58歳。

### ●環境

#### オネスマス・ムトウア

以前は、農業系のNGOのスタッフ。生まれた地域の環境状態が良くないので環境問題に関心があったことから、2006年3月から関わる。CanDoは、地域住民の能力向上を大切にしていることがよいと思っている。無口で、いつも仕事に対してまじめ。東部州キブウエジ県出身。33歳。



### トーマス・ムシラ

元ケニア農業生産プログラムスタッフ。地域の環境問題に興味があり、2008年9月からCanDoに関わる。地域住民がどんどん知識を得ていくこと。普段は冗談が多いが、仕事になると切り替える。東部州エンブ県出身。31歳。



### ●教室建設

#### フランシス・ムエンドワ

以前はエンジニア会社に勤務。ケニヤッタ病院の建設時の監督。新設校を支援することに意義がある、と2006年から関わる。CanDoの活動では、暑い日差しの下、草をかき分けながら道なき道を2時間かけて、教室建設を行っていた学校にたどり着いたことが忘れられない体験という。寡黙で、のほほんとした雰囲気がある。東部州ムベレ県出身。39歳。



### ガブリエル・キエンゴ

以前は、ナイロビにおいて、個人で建設業を行っていた。専門である建設を通して、出身地であるカンバ地域の問題の解決する開発ができる、と2004年10月からCanDoに関わる。木の下で勉強していた小学生に教室を提供できることはすばらしいと思っている。頭の回転が速く、ワークショップでは質問を受けながら、保護者にわかりやすく説明している。東部州ヤッタ県(旧マチャコス県)出身。41歳。



### ●教育—学校保健

#### マーガレット・ムトウンガ

教育局で教育官を務めた後、2005年4月から勤務。経験を教育の場だけではなく、コミュニティを通し地域の人たちに関わることで役立てていきたいと思ったから。いつも心にゆとりがあり包容力がある。東部州マチャコス県出身。60歳。



#### ジョセフ・エム・チャロ

元々医療・教育の専門家。CanDoは地域密着型なところがいいと思い、1998年から2001年まで関わり、今年、復帰。活動を通して成果がみられるところ。経験豊かで、ユーモアを入れたいろいろな話と一緒にいる人を楽しませてくれる。東部州マチャコス県アティリバー出身。60歳。

\* \* \*

この記事は、日本人スタッフ、インターン5人が分担して19人に9項目の聞き取りを行ない、人柄や印象についてコメントしたデータをもとに編集部でまとめました。  
担当：調整員—石田 純哉/短期調整員—満井 綾子/インターン—岡本 優子、三浦 明子、萩生田 愛  
活動中の日本人スタッフはもう1人：事業責任者—永岡 宏昌(出張)そして一時帰国中のスタッフが1人：調整員—景平 義文

## インターンを終えて

### 準備から報告までの一連の流れで知った努力

梅本 大介

昨年12月から今年6月まで、最初の6か月をインターン、最後の1か月を短期調整員として、ケニアでの仕事に携わった。初体験の連続であったこの7か月間は、有意義で特別なものとなったと感じる。

エイズリーダー養成研修、エイズリーダーによるエイズ地域学習会などを行なう「地域保健」を担当した。これらの活動は、スタッフや専門家との準備、研修の進行の確認や現地住民の質問内容の理解、振り返り会議、スタッフ間の報告という一連の流れで進む。

その中で、さまざまな問題に対処できるよう、いくつかのことを事前に想定しておくことの意味、より良い研修を受け手に提供するための努力を知った。スタッフ間のコミュニケーションや情報共有を通じた信頼関係の構築や事前準備の大切さも同時に強く意識するようになった。

今、CanDoの仕事に関われたことをとても嬉しく思っている。CanDoスタッフ、インターン、そしてケニア人スタッフの皆様から感謝したい。(同志社大学大学院)

### 教室建設で見た地域に向き合う姿勢

小松 映里佳

4月中旬から7月まで約3か月間、インターンとして、新しく始まったミグワニ県での活動を中心に携わりました。全体を通して担当したのは教育事業の小学校の施設拡充と学校運営能力向上で、その間に保健事業のエイズ・母性保護地域学習会にも関わりました。

活動を通して感じ、覚えたことは挙げきれませんが、特に印象的だったのは地域に対して責任を持つということです。小学校の教室建設は、どの学校の教室建設に協力する

かを決めるところから始まります。一つ一つのプロセスの進行、物資の供与に関しても、その後地域に今後与える影響を検討しながら進めていきました。土地が学校に所属すること、教室が個人の所有物にならないようにすることなどははっきりさせます。

CanDoがその地域を去った後も地域住民の手で運営できるようにするための方策を通し、責任を持って地域に向き合う姿勢を見て、その意味を確かに知り得たように思います。

### 7月26日(火) ブックレット&電子ブック発行記念報告会 『アフリカの抱える課題に向けてのNGOの役割』を開催しました



ブックレットと電子ブック『ケニアの人々—その抱える課題と参加型開発協力の役割』の発行を記念した報告会を、港区立いきいきプラザで開催しました。最初はパナソニック(株)CC本部社会文化グループ戦略推進室室長横川亘氏による「アフリカで活動するNGOの役割」。環境、貧困といった問題について、NGOにニーズを発信してもらい、企業

は連携をはかっていくという話をされました。次は永岡代表理事による連続勉強会の総編集の活動報告。対談「アフリカの抱える課題に向けてのNGOの役割」では、ほとんどの日本人がNGOの活動もアフリカのことも知らない状況で、NGOは強い思いがあっても経営基盤が弱く、自転車操業に見えるという指摘に関係者はうなずいてしまいました。

### 8月5日(金) アカウンタビリティ・セルフ・チェック 2008 を実施しました

当会は、加盟しているネットワーク団体、(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)によるアカウンタビリティ・セルフ・チェック2008(ASC2008)を8月5日に実施し、8月12日にマークを取得しました。

アカウンタビリティ(説明責任)をJANICでは「ある人ないし組織の業績、応答性、さらには倫理性について、利害関係者が持つさまざまな期待に応えること」と定義。団体の複数の立場の関係者(代表・事務局責任者・事務局員)による自己診断を、外部者が立ち

合って確認します。チェックする項目は4分野—組織運営・事業実施・会計・情報公開—の41項目。該当しない収益事業に関する1項目を除き、40項目をチェックし、36項目をパスしました。

マークは、JANICのアカウンタビリティ基準の4分野について、当会が適切に自己審査したことを示しています。



## 事務局から

### 報告

#### ◇支援

○JICA 草の根無償資金協力事業の期間延長を申請(8月31日から2011年12月31日)。  
○8月1日、外務省 NGO 長期スタディ・プログラム覚書を締結。PELUM ザンビア事務所での研修・調査に理事 藤日春子を派遣。

#### ◇組織

○7月31日、第2回理事会を開催。事業進捗、状況報告と就業規則、会計基準案を決議。  
○8月5日、JANIC のアカウントビリティ・セルフ・チェック 2008 を実施。

#### ◇国内活動

○7月16日、第10回アジア&アフリカ布フェア(六本木・ホテルアイビスで開催)に出展。  
○6月24日、電子ブック「ケニアの人々—その抱える課題と参加型開発協力の役割」発行。  
○7月21日、CanDo 連続勉強会(全10回)終了。参加者数はのべ193名。  
○7月26日、ブックレット&電子ブック発行記念 CanDo 報告会を開催(p.7 参照)。

### 人の動き

○6月27日に梅本大介、7月9日に北田美沙子、7月24日に小松映里佳、8月15日に廣本直希がインターン期間を終了してケニアから帰国・出国。

○7月7日～22日、事務局長 玉手幸一がケニアに出張。

○7月7日、萩生田愛(はぎゅうだ めぐみ)をインターンとしてケニアへ派遣(6か月の予定)。

○8月1日、短期調整員 高木加代子がケニアから帰国。

○8月7日、代表理事 永岡宏昌がケニアに出張。

○8月14日、藤目がザンビアに出発。

○8月16日、調整員 景平義文が一時帰国。

○8月18日、短期調整員 満井綾子がケニアに出発。

### お知らせ

#### ◇10月1日(土)・2日(日)

##### グローバルフェスタ JAPAN2011 に出展

恒例の国際協力のイベントで、今年もブースを出展。パネルやケニアの教科書、そして教室建設の模型を展示し、カンガを使ったオリジナル袋類やケニアの雑貨など販売します。

開催時間: 10:00~17:00

会場: 日比谷公園

最寄り駅: 地下鉄「霞が関」「内幸町」「日比谷」駅から徒歩2分、JR・地下鉄「有楽町」から6分

テントの位置: グリーン・エリア G-10

ウェブサイト: <http://www.gfjapan.com/>

■次号は、12月発行の予定です。

#### CanDo アフリカ [第56号]

2011年9月22日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)  
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話/FAX: 03-3822-1041

電子メール: [tokyo@cando.or.jp](mailto:tokyo@cando.or.jp)

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会